

### 【第3回 鳥インフルエンザ対策本部会議】11月25日（土）

農林水産部長／16時現在の処分羽数9,505羽、進捗状況は24%。

鶏舎は、上に鶏舎があり下に糞がたまる高床式。エレベーターが小さく、処分した鶏を1階まで下ろす作業に苦戦しているが、比較的順調に進んでいる。

17時現在の殺処分等の累計動員数は、県190名、鹿島市8名、JA6名、建設業協会34名。現地対策本部、サポートセンターを含め、合計394名。

消毒ポイントの設置状況は、畜産車両が4か所、一般車両が6か所。重複設置があり、計7か所。

3kmから10kmの間に12戸の養鶏農家がある。それぞれポイントを設けて、蔓延防止のために消毒を実施する。

今後の防疫対応は、順次殺処分を進め、その後焼却処分する流れ。優先して殺処分を行い、その後は農場内の消毒、鶏舎内の壁、床、天井などを噴霧器で徹底消毒し、消石灰をまく。

感染拡大防止のため、本日から県内の養鶏農家に消石灰を配布している。消毒の徹底をお願いする。

本日昼、鹿島市内でカラスが死んでいると通報があった。現場で簡易検査をした結果、鳥インフルエンザウイルスの陽性を確認した。これを受け、野鳥の監視を強化し、鹿島周辺のため池、海岸、堤防等を巡視したが、死んだ鳥等は見つからない。

今後、国の検査機関に送付し、確定検査を実施する予定。

この写真は鶏舎入り口部分。全体に消石灰をまいた。これは、殺処分の作業風景。一羽ずつ入っている鶏を出し、処分している。

知事／鶏がいるのは、2階部分なのか。

農林水産部長／そうです。隙間から、糞のたまっている1階部分が見える。エレベーターで、このポリバケツを下に降ろしていく作業になる。

1階まで降ろしたポリバケツに炭酸ガスを注入し殺処分する。8羽～10羽を医療用の容器ミッペールに入れる。この容器は、一度蓋をすると開かない構造。家畜防疫上、これに鶏を入れた時点で防疫措置が完了した扱いになる。

防災監／作業自体は順調。当初は、ミッペール容器に入れ、焼却場に持ち込む想定だったが、容器不足のため、並行して現地での焼却も予定していた。しかし、煙や灰の問題

があり、すべてミッペール容器に入れ、処理場に持ち込む予定で作業を進めている。不足している容器の調達を本部でお願いしたい。

知事／数量は？

農林水産部長／こちらで、5,500 発注するつもり。

防災監／それで足りる。

知事／ミッペールのチームを作り、余分に調達してもいい。総務部もフォローするように。現場は要望するだけでいい。

鹿島市長／煙や灰が出ることに市民の理解が得られず、対応を変更していただいた。すべてミッペールでお願いします。

知事／ミッペールに入れると、いったん措置が完了。その後、順次焼却する。ミッペールが不足すれば、埋却の可能性も出てくる。最悪のケースを並行して考える必要がある。

県土整備部長／消毒ポイント班では、6 か所を予定していた。うち1 か所を養鶏車両と一般車両に分けたため、1 か所増えて7 か所となった。資機材の搬入や設置の準備が完了したところから順次作業を始めている。14 時半から始め、現在はすべての箇所消毒を開始。

養鶏車両を含む消毒ポイントでは、建設業の方2名と県職員2名の4名体制。一般車両は作業が比較的簡易なため、県職員2名体制。

交通量が多い場所や坂道でスピードが出る場所は、十分な安全管理で作業を進めたい。

健康福祉部長／本日午後、事業主を含め、当該養鶏場の従業員の健康調査を実施した。体調等に異常はないが、引き続き10日間は健康調査を行い、フォローしていく。また、当該殺処分に従事している職員に体調不良者は出ていない。

知事／現地では、建設業やJA、市民の皆さん方も応援してくれている。本当に心強く、素晴らしい町だと思う。まだ途中だが、お互いが支え合いながら、対応していきたい。

殺処分では、高床式の課題があり処理のスピードが出ない。ただし、すべて成鶏なので、作業スピードの変化は少ない。慎重に夜間対策をとりながら作業を進めてほしい。

ミッペールの件は、夜になれば状況が見通せるだろう。現場は作業を中心に、本部で調達してほしい。

今回は、10km 圏内に12の養鶏農家がある。従来と違うのは、交通量が多いところ。ほかの鶏舎に感染が広がると、いたちごっこになる。これを避けるためには、労を惜し

まないこと。全力で向き合っていきたい。

明朝まで作業が続く。皆で励まし合い、協力しながら乗り切りたい。作業している皆に感謝し、本部も全力で取り組む。